



「浦和のさかえに 歴史をほこる」開校154年目、「つなぎ いかし 深める」1年に

大いちょう

令和 6年11月 1日
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 令和6年度 No. 7 048 (829) 2737

「本を読まない」62.6% 令和5年度「国語に関する世論調査」(文化庁)より

校長 永山 誉

関東地方は、10月19日に観測史上最も遅い真夏日を記録するなど、暖かい秋となっていましたが、霜月を迎え、朝夕はかなり寒くなってきました。山々の木々も少しずつ色づきはじめ、いよいよ秋本番といったところです。「食欲の秋」「スポーツの秋」「芸術の秋」「読書の秋」にふさわしく、本校では、この1か月の間、秋を彩る給食の提供、運動会(分散実施)や校外学習の実施など、様々な活動を展開してまいりました。それぞれの活動を通して、子どもたちの輝く姿を御覧いただけたのではないのでしょうか。11月9日には校内音楽会を実施します。子どもたちは、現在、音楽会に向けて準備を進めています。お子様一人につき保護者の方の御参観は2名までの限られた人数となりますが、当日の御参観をお待ちしています。

さて、「読書の秋」に関して、9月17日に文化庁より発表されました 令和5年度「国語に関する世論調査」※の内容から、読書に関する部分について御紹介し、今後の読書の在り方について考えてみたいと思います。※この調査は令和6年1～3月に実施され、全国16歳以上の個人6,000人を対象(有効回答数3,559人)に郵送による調査方法で行われています。ただし、令和元年度以前の調査結果は調査方法が異なるため、比較には注意が必要であるとのことです。

この調査結果によりますと、「電子書籍を含め1か月に大体何冊くらい本を読んでいますか」という問いに対して、62.6%の人が「読まない」と答えています。調査方法が異なることから単純には比較はできませんが、平成30年度の調査結果では、同じ質問に対して、47.3%の人が「読まない」と答えていたことを考えると、いわゆるコロナ禍を経て、益々読書離れが進んでいると言えるかもしれません。特筆すべき結果としては、「読書量が以前と比べて減っていますか、増えていますか」という問いに対して、69.1%が減っていると答え、さらに「なぜ減っているのか」という問いに対しては、「情報機器(携帯電話、スマートフォン等)で時間をとられる」と答えた人が一番多く、特に16～19歳に関しては、70.9%が「情報機器で時間がとられる」と答えるなど、若者になればなるほど情報機器との関連が読書量の減少につながっているところがあります。現在、情報機器の発達により、より手軽に様々な情報を得ることが可能になってきていますが、半面、じっくり読書をして、じっくり考えるという機会が減ってきているのかもしれない。読書は、子どもたちの心情や感性を豊かなものにすると言われていています。また、物事をじっくり考える機会にもなります。このような調査結果を受け、せめて義務教育の年代においては、より読書をする機会を作っていくことが大切であることを感じています。小学生は、読書の時間が好きであり、図書室で多くの本に触れています。この気持ちをこれからもずっと持ち続けていけるよう、読むことの大切さをこれからも感じ取らせる機会を作っていきたいです。折しも、10月27日～11月9日は全国読書週間です。本校では、11月11日～11月29日を秋の読書月間として、図書委員会主催の様々な企画が計画されています。御家庭におかれましても、秋の夜長、時にはお子様と一緒に読書をされてはいかがでしょうか。

【「心を潤す4つの言葉」推進週間の取組について】

さいたま市では、各学校において11月に「心を潤す4つの言葉」推進週間を設定し、児童・教職員・保護者・地域の方々が、積極的に気持ちのよいあいさつや返事、心をこめた素直な言葉を交わすことによって、一人ひとりの心が通う学校や地域づくりを目指すことを目的として様々な取組を実施します。高砂小では、11月18日～22日を推進週間とし、代表委員会で取組内容について検討しました。岸中学校との挨拶運動についても検討しています。保護者の皆様や地域の皆様におかれましても、子どもたちの登下校時に積極的にお声掛けをお願いします。

※心を潤す4つの言葉-「おはようございます」「ありがとうございます」「ごめんなさい」「はい」